

## 2023年度の省エネルギー対策について

慶應義塾では2021年度から各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を2019年度比で1%以上低減することを目標に、様々な省エネルギー対策を実施してきた。2023年度からは義塾全体のカーボンニュートラル化の推進と、電力料金の急激な高騰（2022年度比で約1.5倍になる見込み）に対応するため、これまでより更に高い省エネルギー目標を掲げ、既存施設の高効率化や再生可能エネルギー導入などハード対策の積極的な実施と、電力使用機器の使用抑制などソフト対策をより徹底することで、その達成を目指す。

## 1 省エネルギー目標

「各キャンパス単位でエネルギー消費原単位を2022年度比で2%以上低減する」

## ※エネルギー消費原単位

異なる単位を用いるエネルギー（電気・ガス等）の使用量を合計するために、各エネルギーを熱量換算し、その合計値を各キャンパスの延べ床面積で除して「エネルギー消費原単位」を算出する。

## 2 対象期間 2023年度中

## 3 具体的運用例

基本方針は、昨年度までの対策を概ね踏襲するが、熱源機器改修検討、建物外皮性能の向上検討、再生可能エネルギーの導入、エネルギー管理ツールの利用をより具体化した運用を追加した。

なお、以下の運用については、教育・研究・医療環境を損なうことのないよう配慮しながら実施することとする。

## (1) 施設改修などハード対策

## ア 高効率機器採用

- ・照明設備のLED化を促進する。（全塾で2025年度までの完了を目指す）
- ・空調設備を高効率設備に更新する。
- ・熱源機器（CGS含む）の高効率化改修を検討する。
- ・建物の外皮性能の向上を検討する。

## イ 再生可能エネルギーの導入を進める。

- ・再生可能エネルギー導入ポテンシャル検討結果に基づき、再生可能エネルギーの導入を進める。

## ウ エネルギーの管理・分析

- ・既存エネルギーマネジメントシステムを活用し、建物ごとなどきめ細かなエネルギー管理および分析を行い既存設備の運用改善、省エネ化改修の検討を進める。
- ・エネルギーの見える化を検討する（既存システム見直しを含む）。

## (2) 運用などソフト対策

## ア 空調について

使用していない教室等の空調停止および適切な温度設定を行う。  
（設定温度については空調運用対象期間前に別途案内）  
外気冷房の積極的な導入をする。

## イ 照明について

使用していない教室等の消灯および安全性と必要照度を確保し、減灯を行う。  
係員による省エネパトロールを行い、予約されていない教室の消灯をする。

## ウ エレベーターの稼動について

複数台設置されている場所については一部を停止する。

## エ 電気機器等について

電気温水器・暖房便座等さまざまな電気機器類について必要最低限の稼動とする。また、持込電気機器類の使用は禁止とする。

## オ 教室などの使用について

利用申請のない教室等は照明ならびに空調機の稼動停止を徹底する。  
教室などのCO2濃度をモニタリングし、過度な換気を抑制することでエネルギーロスの少ない換気を徹底する。  
係員による省エネパトロールを行い、予約されていない教室の空調を停止する。

## カ 啓発活動について

見える化（電力使用グラフ）・ポスター・各自が使用しているパソコン等の電源OFF（待機電力削減）・消灯空調停止のお願い。

## キ クールビズ・ウォームビズの奨励

教職員に対して、クールビズおよびウォームビズを奨励する。

対象期間は、クールビズ 5月1日～10月31日、ウォームビズ 12月1日～3月31日

なお、ウェブサイトで公開している慶應義塾の電力使用状況（グラフ）については継続して公開するが、今後の公開については、より効果的に周知が行える方法を検討する。